

# 演劇創造

復刊

第142号

(第55巻 第1号)

令和2年(2020年)7月15日発行



— 発行 全国高等学校演劇協議会 —

〒732-0068 広島県広島市東区牛田新町1丁目1-1 広島市立広島商業高等学校 TEL 082-228-2481 FAX 082-222-0869

事務局長 黒瀬 貴之

ホームページ <http://koenkyo.org/> メール [info@koenkyo.main.jp](mailto:info@koenkyo.main.jp)

## 第66回 高知大会によせて

全国高等学校演劇協議会

会長 揚村 洋一郎



第66回全国高等学校演劇大会は、全国高等学校総合文化祭主催県の高知県高知市WEB大会としてWEB配信（WEB SOUBUN）を中心として開催されます。WEB SOUBUNは7月31日～10月31日までWEB開設されます。全国8ブロックより推薦を受けた11校に開催県の高知県からの1校を加えた12校のメッセージや写真、動画などが掲載されます。

が掲載されます。

全国高等学校総合文化祭は、文化部のインターハイとも呼ばれ、演劇をはじめ高等学校文化連盟のすべての部門における高校トップレベルの演技・演奏等、日頃の部活動の成果が披露される場です。こうち総文の大会テーマ「蒼海の知 緑樹の感 陽光の志 いま、南国土佐に集うとき」のもと、実行委員会を中心に総力を上げて、高知を中心にWEB上において高校生の文化の祭典が繰り広げられます。

さて、演劇部の生徒にとって舞台上に新しい世界を創りだすことは大きな喜びです。単に上演するだけの喜びにとどまらず、笑いや涙とともに、より質の高い感動を観客の皆さんに届けることを目指しています。そのために、身体訓練に始まり脚本制作・研究、演出・演技の工夫、創作、舞台装置の作成といった演劇創造に努力を惜しみません。このような日常活動の積み重ねによって生まれた舞台が、今まさに花開こうとしております。生徒の真摯な活動を支え、応援していくことは私たちの使命だと考えています。

一方、全国大会において当初より「指導者講習会」を掲げているのも、高演協の姿勢の表れの一つです。指導者の養成は高校演劇の大きな課題です。演劇を志し、意欲のある先生方や指導者が増えていくことを支援していくのも高演協の重要な役割の一つです。本年度のWEB SOUBUNは、練習風景なども垣間見ることができ、指導の一助となることでしょう。今まで参観することがかなわなかった生徒、先生方も配信期間中いつでも何度でも参観、観賞することができ、参考になることと思います。

高演協においては、地区大会を経て都道府県の中央大会への出場が決まり、ブロック大会を経て全国大会に臨むという、コンクール形式をもって各大会を運営しています。演劇という表現形態のため、その審査には地区大会から専門家が当たることとなります。そのため、演出・演技、装置、音響・照明といった総合的な見地から立って、専門的な判断や講評を仰ぐことができます。皆さんのご覧になった演劇について、専門的な立場からご指導・助言をいただけるということが、演劇づくりの質的向上に大いなるヒントを与えてくれます。

いよいよ66回になる全国高等学校演劇大会が始まります。この全国高等学校総合文化祭も44回を数えませんが、大変意義のある大会であり、各ブロックから推薦された12校の意気込みを強く感じます。本大会を通して生徒及び関係者の方々との交流が深まり、文字通り演劇創造としての舞台が築かれようとしています。これまで高校演劇に取り組みられてこられたすべての方々のご尽力に思いをはせながら本大会に臨みたいと思います。

結びに、本大会開催にあたり、高校生のために数年も前から準備にご苦勞をいただいている開催地高知県の担当者の皆様をはじめ関係各位の皆様にご厚くお礼を申し上げます。

（全国高等学校演劇協議会会長 東海大学付属大阪仰星高等学校中等部・高等学校校長）

「皆さんの記憶に残るWEB総文に」

織田 敦子



本来ならこの原稿は「ようこそ高知へ」で始める予定でした。昨年の夏、「2019さが総文」にお邪魔して、次期開催県代表として挨拶した時には、まさか「2020こうち総文」がこのようなことになるとは思ってもおらず、「高知は自然豊かで食べ物もおいしいところやき、絶対来てよ。待ちゆうき。」と、会場の高校生の皆さんに呼びかけ、再会できることを心待ちにしておりました。

コロナで奪われたものはたくさんあります。特に各ブロックの代表となられた演劇部員の皆さんは、この怒りや悲しみ、脱力感や苛立ちをどこにぶつけたらいいのかわからない状況なのではと思います。高校演劇に関わる人間にとっては「夢の舞台」である総文祭の舞台に立てないということは、どれほどのショックだったかは想像に難くありません。正直、運営に携わっている高知県の演劇関係者も辛い思いをしました。今まで準備してきたものが何だったのかという徒労感もあります。また、新たな試みである「WEB SOUBUN」に対して、「このような形で本当に良いのか。生で演じてこそ演劇ではないのか」という思いがないと言ったらうそになります。しかし、感染防止を最優先に考えるとき、このような形での開催となったことをご理解いただけたら幸いです。

今まで当たり前と思っていた日常が、実はかけがえのないものであったことに気づかされる日々です。私は、この経験が、高校演劇の世界に新しいお芝居を生むのではという、一筋の光を見ています。今年がラストチャンスであった生徒の皆さんには申し訳ないのですが、来年、再来年の総文祭で、コロナ後の世界が高校生たちによってどのように表現されるのか今から楽しみにしたいと思います。

最後になりましたが、今大会を開催するにあたりご協力いただいた全国高等学校演劇協議会の先生方をはじめ、すべての関係者の皆様に感謝申し上げます。

(第44回全国高等学校総合文化祭演劇専門部会長 高知県立春野高等学校校長)

.....

2020こうち総文～WEB SOUBUN～で逢いましょう！

大石 由紀



高知は人が集まりワイワイするのが大好きな県です。皿鉢という直径50センチくらいの大皿に、海の幸やら山の幸やら羊羹やら、メインおかずからデザートまでが盛り込まれた料理でおもてなしをして、知らない人でもお構いなしにみんなで集まって話したり騒いだりする「おきゃく」という文化があります。それなのに！そんな高知でも人が集まることを自粛する状況となってしまった2020年です。

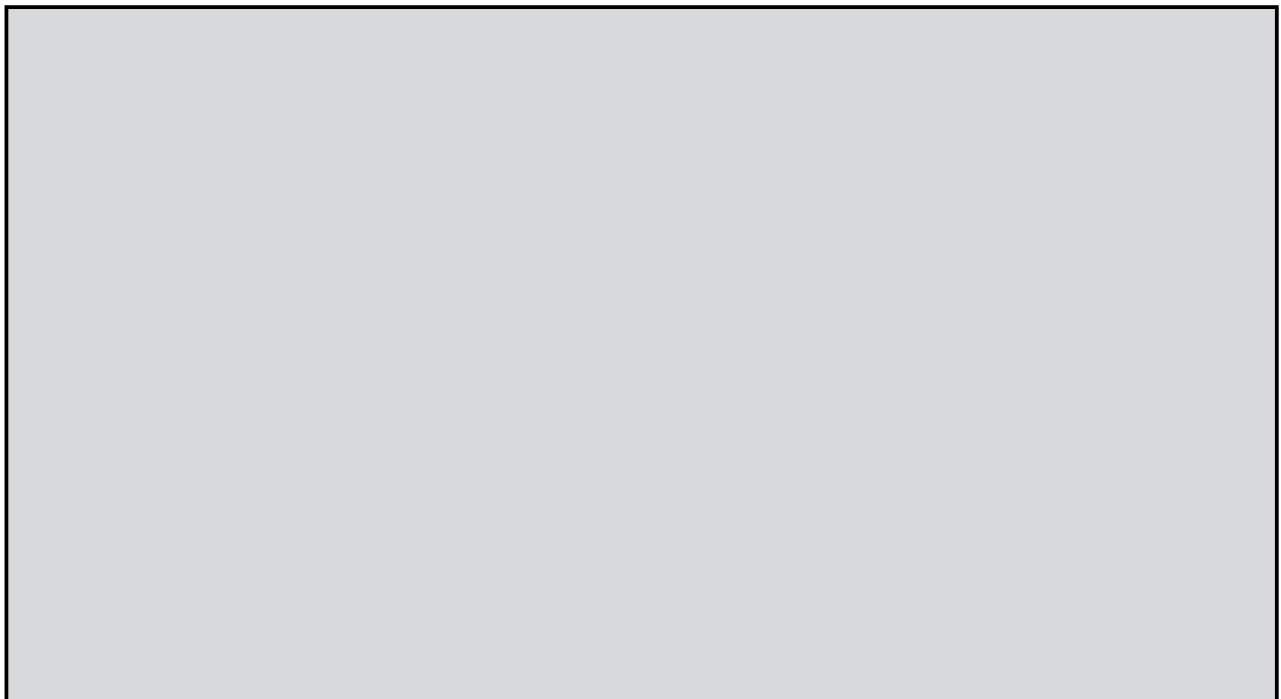
5月に文化庁・全国高等学校文化連盟・高知県実行委員会から発表があり、「通常開催ではなく、WEB上での発表・交流の開催」となりました。参加の高校生みなさまのお気持ちを想うと、何とも言えない心境となりました。大会事務局としてできることはと考えたとき、宮城、長野、佐賀の大会事務局のみなさまの姿が思い浮かびました。上演校が最高の舞台を踏めるようにと、工夫を凝らして準備がされていた姿です。高知の大会事務局として、上演校や生徒講評委員のみなさまにできること、それはWEB上での紹介と記録集の作成です。急いで枠組みをつくり取組みました。WEB SOUBUNでの動画配信は、演劇部門に対する期待の声も寄せられており、上演校のみなさまには感染対策等で難しい状況の中、動画提供についてお力をいただきました。本当にありがとうございます。また、大きな変更での開催となった「こうち総文」を支えてくださった関係者のみなさま、心から感謝申し上げます。

それでは、WEB SOUBUNで逢いましょう！

(第44回全国高等学校総合文化祭演劇部門代表委員 高知県立高知丸の内高等学校演劇部顧問)

全国大会 出場校一覧

ブロック	学校名	作品名	作者名
東北	青森県立青森中央高等学校	俺とマコトと終わらない昼休み	畑澤聖悟
開催県	土佐女子高等学校	あやな先生のトランプ	土佐女子中高演劇部／ 劇団かふえいん
関東	千葉県立松戸高等学校	ゴリラゴリラゴリラ	阿部順
中部日本	愛知県立津島北高等学校	ジンコちゃんの世界	畑澤聖悟
関東	静岡理工科大学 星陵高等学校(静岡県)	日本の大人	柴幸男
四国	徳島市立高等学校	水深ゼロメートルから	中田夢花
近畿	洛星高等学校(京都府)	とりでのむこう	寺腰玄
中国	島根県立三刀屋高等学校	ただ、今	亀尾佳宏
中部日本	愛知高等学校(愛知県)	井戸の茶碗	古典落語「井戸の茶碗」 愛知高等学校演劇部／脚色
九州	長崎県立長崎北高等学校	アルキメデス・スリッパ	長崎北高校学芸部と福田耕
北海道	北海道富良野高等学校	へその町から	富良野高校演劇同好会
関東	埼玉県立川越高等学校	いてふノ精蟲	阿部哲也



# 特集 全国大会出場校による 「舞台にこめるメッセージ」①



## ① 青中央 World!

青森・青森中央高等学校

高知の地で皆さんとお会いできなく、とても残念に思います。ですが、私たち青中央演劇部は、皆さんの前で上演できることを信じて日々稽古に励んできました。全国12校が集まれる日がきましたら、最高の舞台を、青中央の世界を、皆さんにお届けしたいと思います！

今回お見せしますのは、「俺とマコトと終わらない昼休み」。田んぼとリンゴ畑に囲まれたごく普通の高校の、ごく普通の昼休みのお話です。

ほら、きっとあなたの学校でも。

(成田 有咲)



## ② 舞台にさわやかな風が吹きますように。

高知・土佐女子高等学校

こんにちは。土佐女子中学高等学校演劇部こと、劇団かふえいんです。

何気ない毎日の生活の中で、ふと気がついた、真実かもしれないものを大切にしたいと思っています。

「ね、あやな先生。こんな世の中を、トランプの大富豪の革命みたいに変えられないかなあ。」

目で見つめ、心で感じている世の中を、私たちの言葉と想いで描いています。

人生には寄り道があってもいい。それは必ず大切なものとして、自分の心に、未来に刻まれるから。

全力のはちきんパワーで、駆け抜けます！

(坂本 凧)



# 特 全国大会出場校による 集 「舞台にこめるメッセージ」②



## ③ 「ゴリラゴリラゴリラ」

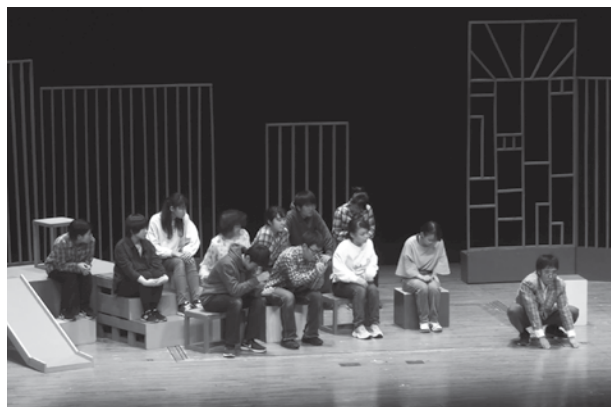
千葉・松戸高等学校

〈あらすじ〉大学入学直後ゴリラに一目惚れしてしまった奥山千夏は、理学部生物学科に入り直し、ゴリラの研究を始める。動物園で出会ったゴリラのハナコとコミュニケーションをとるうちに、二人の間には友情が芽生える。そんなハナコにはある‘不満’があった…

〈コメント〉ゴリラには、「獰猛(どうもう)」「攻撃的」と言った‘怖い’イメージがありますが、実は優しくて紳士淑女、平和主義だそうです。その感情や行動様式から、人間に最も近い類人猿と呼ばれています。アメリカの女性生物学者ダイアン・フォッシーや京都大学の山極壽一総長は、アフリカのゴリラの群れの中に入って一緒に‘暮らし’ました。そんなゴリラに魅せられた人々の姿を、主人公・奥山千夏に重ねました。

〈メッセージ〉ゴリラゴリラゴリラの意味は？こうち絵文 WEB SOUBUN 動画をアップしますのでお楽しみに！

(松高演劇部)



## ④ 60 分間、ただ必死に生きる

愛知・津島北高等学校

津島北高校演劇部は、初めての全国大会に向けて練習を重ねています。

メインキャストが卒業し、キャスティングをほぼすべて変更しており新しいお芝居を作っている感覚です。今までもこれからも私たちはたくさん悩んでたくさん泣いてたくさん考えて…たくさんの時間を部員で共有していきます。

「ジンコちゃんの世界」、私たちは全員で 60 分間を、ただ必死に生きます。

今の私たちがあるのは支えてくださるすべてのみなさんのおかげです。

私たちの覚悟をご覧ください。

(津島北高校演劇部)



# 特集 全国大会出場校による 「舞台にこめるメッセージ」③



## ⑤ 子どもと大人と、未来の大人に向けて 静岡・学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校

高校生とは大人と子どものはざまにいる存在です。

はやく大人になりたいときも、いつまでも子どもでいたいときもありますよね。

私たちが上演する「日本の大人」は、出会いあり、別れあり、小学生あり、32歳ありのコミカルけどちょっぴり切ない、夏のおわりを感じさせる作品です。

主人公おくだなおと君は、大人になりたいくないおっさん・くまのさんに出会い、大人とは何か考えます。みなさんは、大人ってどんな人だと思いますか？

夢にまで見た全国大会。富士山を間近に仰ぐ静岡の地から、部員一同心を込めて、清涼感あふれる劇をお届けします。

(下村 澄青)



## ⑥ 私には水のないプールがお似合いやからな。 徳島・徳島市立高等学校

中学の時は違うかった。あいつは成長していくのに、私は頑張っても頑張っても、水深ゼロメートルから抜け出せんよ——。

この作品は、先生や先輩と一緒に「愛のある作品を」をモットーに作り上げた舞台です。様々な経験をしてきた大人やこれからどこかできっと壁にぶつかるであろう学生など、多くの人にとって、何かが変わる瞬間になる事を願って作ってきた作品です。私たちの思いを伝える場が無くなり、直接感想を頂くことが出来なくなってしまいました。多くの方々への応援・ご協力に感謝し、自分達が今出来る事を全力でやりきれるようにしたいと思います。よろしくお祈りします。

(演劇部一同)



# 特集 全国大会出場校による 「舞台にこめるメッセージ」④



## ⑦ 戦う者の、歌が聞こえるか？

京都・洛星高等学校

大人の威厳を持った人はこの劇に出てきません。  
 子どもの真っ直ぐさを持った人も出てきません。  
 みんなどこか捻くれていて、ずるくて、だらしなく、ときどき人を騙して喜んだりもしますが、持っている悩みだけは普通の男たちです。  
 放課後のコンピュータールームで巻き起こる、「なりすまし」シチュエーションコメディ。  
 洛星高校演劇部、全国の名に恥じないように一同全力で演じます。  
 「とりでのむこう」、ぜひお楽しみください。

(寺腰 玄)



## ⑧ 芝居は終わる 青春は終わらない

島根・三刀屋高等学校

私たちが過ごしている『今』は時代によって変わる。そして、私たちの『エロ』も変わっていく。  
 昔は橋の下でエロ本を拾う。  
 今はスマホで画像をダウンロードする。  
 結婚はしたい、子供も欲しい、しかし性関連は……。  
 部活中の男子高校生と空き家で遊ぶ小学生が繰り広げる彼らの『今』。  
 部活中の話し合いがきっかけで出来上がった台本。キャストスタッフ顧問関係なく真面目に遊び続けた稽古。どれもトラブル続きで迎えた地区、県、中国大会。  
 まさに長いようで短かった一年間。  
 これでもか！というくらい真面目に遊び続ける私たちの『ただ、今』を是非ご覧ください！！  
 (島根県立三刀屋高等学校演劇部)





# 特集 全国大会出場校による 「舞台にこめるメッセージ」⑤



## ⑨ 落語×高校生×演劇

愛知・愛知高等学校

こんにちは、愛知高校演劇部です。

私たちが今回上演する「井戸の茶碗」は、古典落語を舞台化した作品です。

江戸時代から庶民の娯楽として語り継がれてきた落語には、現代にも通じるエンターテインメントの要素がたくさん詰まっています。

クセの強いキャラクターたちが織り成す奇想天外な人情劇、肩の力を抜いてお楽しみください！

(伊藤 駿吾)



## よもぎだ ⑩ 蓬田先生にさえも愛を込めて

長崎・長崎北高等学校

全国で唯一県営バスが運行されている長崎県。そんな誇れるのか誇れないのか今ひとつわからない長崎の、とある高校近くにあるバス停で繰り広げられる、どこにでもありそうで、どこにもなかったお話。ツインテールの幼馴染もイケメン転校生も登場しないし、ネコ型のバスが停まることもない。でも、きっとあなたの心にもぽっかりと大きな穴が・・・、ダメじゃん。あなたの心がほんのりと優しい茜色に染まるといいなと思います。では、「アルキメデス・スリッパ」どうぞお楽しみください。あ、タイトル関係ないや。まいつか。

(海見 天武)



# 特集 全国大会出場校による 「舞台にこめるメッセージ」⑥



## ⑪ 俺たちが世界の中心だぜ！

北海道・富良野高等学校

♪ ああーあああああーあ♪

北海道の真ん中、**へその町**からやって来ました富良野高校演劇同好会です。そうです。ドラマ「北の国から」の舞台でもある「演劇のまち」富良野ですが、実は富良野高校には演劇部がなく、演劇同好会なのです。

お金も、練習場所もなく、支部大会にすら出たことなかった私達が、まさかの全国大会出場！学校から旅費が出ないため、富良野市の方々のご協力でなんとか出場できることに…と思った瞬間、今度はコロナが…そんな度重なる逆境にもめげず、地元富良野からの最新の上演を皆様にお届けしたいと思います。まさに「**へその町**から」世界に向けて発信します！（発信できなかつたらごめんなさい）

♪ んんーんんんーん♪ (本編に続く)

(演劇同好会一同)



## ⑫ 熱 盛

埼玉・川越高等学校

このご時世自分の無人島がどんどん発展していくにつれて課題とストレスと鬱憤はどんどん溜まっています

本当は皆さんにその熱量を演劇で放出したかったのですがソーシャルディスタンス0の密な演劇をするのは今は叶いません

ぜひweb上だけでもご覧頂き、そしてこの自粛が終わったらぜひ「**いてふノ精蟲**」を生で見たいです

(助川 祐翔)



## 春季大会、コロナに墮つ

新潟市民芸術文化会館は、新潟県新潟市中央区の白山公園にあるホール施設。愛称「りゅーとぴあ」で2020年3月に春季大会を行う。話が持ち上がったときは結構前からでした。夏の福島大会が震災により開催困難になったとき、いち早く手を上げていただいたホールでした。その時は、春季大会が伊達でありました。津波が数センチという報道がありました。それだけで四国と九州は、参加を見送りました。生徒達は来たがっていました。しかしかなわなかった。おそらく、新潟県だと夏の大会も参加を見送る可能性がある。そう思い、その時は感謝しながらも西に視点を置き、香川県綾歌大会へと進んだのでした。その頃から、いつかここに来たいと考えていたのでした。新潟が決定したとき、本当にうれしかった。時間的には余裕はありましたからいろいろなことを少しずつ、確実に進めて、満を持しての開催を目指し、コロナの気配感じる中、上演校が出そろった三日後までには上演順を一気にまとめ上げ、舞台の打ち合わせを進めるだけになって、あの悪夢のような自粛が始まったのでした。

色々として上演に対しての努力がなされました。考えられること全ての可能性を追いかけました。無観客ではどうか、上演のたびに入れ替え、上演が終わったら日帰りを来る返してでも行けないか。そんなことまで考えました。しかし、公共施設自体が閉鎖に追い込まれ始めた2月29日決断のために東京に集まった全国事務局と新潟県事務局。集まって話したのは、開催不能であることを確認することだけでした。

私も急遽前日に日帰りでスカイマークを取り、いや、取れるほどに空港は閑散としていました。そして格安だった…。28日は、転勤が確定した自分のクラス（2年）の最後のLHRとなってしまいました。転勤のことを話すこともできず、何だか意味なくいつになく熱いことを語る担任に不思議な顔をし、明日から長い休みに入る笑顔の前でとても切ない思いをし、翌日東京へ。

ありとあらゆる可能性を追求したあとに残ったのは、上演の記録を、足跡を残す作業でした。ネット配信での全上演中継を目指しました。残念ながら四国は不参加となりましたが、それは、生徒たちの思いから来た決断でした。それもまた大事なことだと思いました。ちなみに、映像は後日私のところに届けられ、意欲的なその作品が、配信こそできませんでしたが全てそろいました。web開催のみとなった新潟大会。参加校には本当につらいことだったろうと思います。力至らず、本当に残念でした。今回は北九州芸術劇場で舞台から、客席からの参加を祈念します。

### 第14回 春季全国高等学校演劇研究大会（フェスティバル2020）一覧

学 校 名	作 品 名	作 者 名
大同大学大同高等学校（愛知県）	ト音	春陽漁介／原作 大同演劇部／潤色
大谷高等学校	じみふる	桑原日和 高杉学
徳島県立城東高等学校	となりのトライさん！	よしだあきひろ
宮崎県立宮崎東高等学校	三月の 空に	野村由美
北海道新篠津高等養護学校	オツベルの象たち	山田勇氣
福島県立福島南高等学校	放課後のヘラクレス	矢野青史
山口県立山口高等学校	Change my world	川上そよ香／作 山口高校演劇部／潤色
新潟県立新潟工業高等学校	女子高生	久留米大学附設高校演劇部・岡崎賢一郎／作 引場道太と新工放送演劇部／潤色
山梨県立甲府南高等学校	イノセント鉄道とぼく	中村勉
新潟県立長岡高等学校	ドレミの歌	平塚直隆／作 高沢克之／潤色

# 都道府県だより

## 栃木県

「生徒の顔が、見たい。」

畑 康博

前置き。コロナのことは書きません。文章が暗くなるので。

栃高文連演劇部会事務局長になって3年目の畑です。演劇創造の原稿依頼とバックナンバーをいただいてから眺めていると、「ひよんなことから演劇部顧問となってン十年」とか「高校生のときに演劇を始めたわけですがひよんなことから事務局長」とか読ませていただくことも多いわけです。そんななかで私はというと、高校生のときに合唱を始めたわけですがひよんなことから演劇部会事務局長となっています。同じ「舞台」に関わる営みとして興味を持って演劇部の顧問を志願したところ、顧問4年目には事務局長になっていました。こんな素人顧問でもなんとか回っていったのが栃木県

の強み、助け合いの精神、全員で一つの舞台、なんだと思います。たぶん。

事務局長1年目に関東大会（栃木会場）を開催しました。現地での会場仕込みが始まってから「開会式は栃木市の観光映像から始めよう」「せっかく蔵の妖精『とち介』さんに派遣依頼を出したのだから絡みは生徒に任せよう」「なんなら開会式の司会進行はすべて生徒実行委員長と生徒講評委員長に任せよう」「事務連絡も全部任せよう」「大人が出る部分は極限まで減らそう」「顧問研修会の案内も任せよう」などと次々にアイデアが出てきて実行に移していったのは、全国大会でもお馴染み、岩淵先生、角海先生、大垣先生をはじめ皆さまのお力だったと思います。

栃木県としてこのところこだわっておりますのは、生徒講評活動です。と言っても、全国大会ばりに本格的に実施されている都道府県やブロックも多い中で恐縮ですが。栃木県大会で生徒講評を始めたのがどうやら20年近く前、長らく非公開で実施し、アウトプットよりも講評委員同士の話し合いを重視して活動してきましたが、全国大会（長野大会）に私が生徒講評委員の引率で参加した際に感銘を受け、上述の関東大会栃木会場の際に（ほとんど私の独断で）公開形式に変えました。関東ブロックでは生徒講評はあまり広まっておらず、関東大会での実施はこれが初めての試みだったようです。全国大会のような立派なものには及びませんが、大会後にTwitterで短めの講評文を公開しました。翌年の関東大会（茅野会場）でも生徒講評活動を継続していただけた（しかも栃木県から運営顧問を派遣協力して）、のは望外の喜びです。生徒が活動の主体となり、生徒の思いを汲み取る、そこに高校演劇の面白さがあるのでは、と私は感じています。

個人的なこだわりをひとつ。インプロです。顧問なりたてのときに、栃高文連演劇部会の高校生演劇ワークショップで紹介していただいてから、こんな可能性もあるのかと心に引っかかり、私の宇高演劇部ではここ3年間、すべての上演脚本にインプロシーンを取り入れております。（おかげさまで関東大会でもインプロできました）。休校中もZoomでインプロしていました（あ、書かないはずが）。観客を目の前にして、リアルタイムの、生の、双方向性の、やり取りがある。そこに息づく高校生たちの生き生きとした顔が、私は大好きなのです。高校演劇でのインプロが栃木県から広がっていったら、ちょっと面白いな、なんて考えています。

（栃木県高等学校文化連盟演劇部会 事務局長）

## 島根県

## 「水無月の憂鬱」

見越 正勝

あらゆる切り口に「コロナ」が冠せられる年度末、年度はじめ。見えるところで、見えない形で、影響を受けるすべての方々と、痛みを分かち合いたいと思います。

さて、そうした不測の事態とともに、島根に進行する深刻な問題があります。それは少子高齢化。数々の行政施策が試みられる中であって、その成果が……、という観察や分析は他に譲るとして、島根県高校演劇部顧問の世界でも、「少子高齢化」問題が深刻です。

目下島根県高文連加盟の演劇部数は13。10年前の11校から微増微減を繰り返しながら、加盟校数はなんとか維持されています。それでももっと前と比べれば、驚くほどの減少。米山治作詞、古関裕而作曲の島根県民歌「薄紫の山脈」の三番に歌われる「九十万の県民の」の詞に涙を覚えるほど進む過疎化に抗えずに、統廃合され消えていく演劇部。それに伴い減っていく演劇部顧問。

また県大会プログラムを見ると、この10年で、ベテランだった顧問も徐々に管理職となったり定年を迎えたり、人事異動ルールによって演劇部のない学校に転勤となったり、部員と直接関わる場から遠のいてしまう方々も。一方で、若手が顧問に就き、その名が毎年載っている、という例はあまり見つけられません。

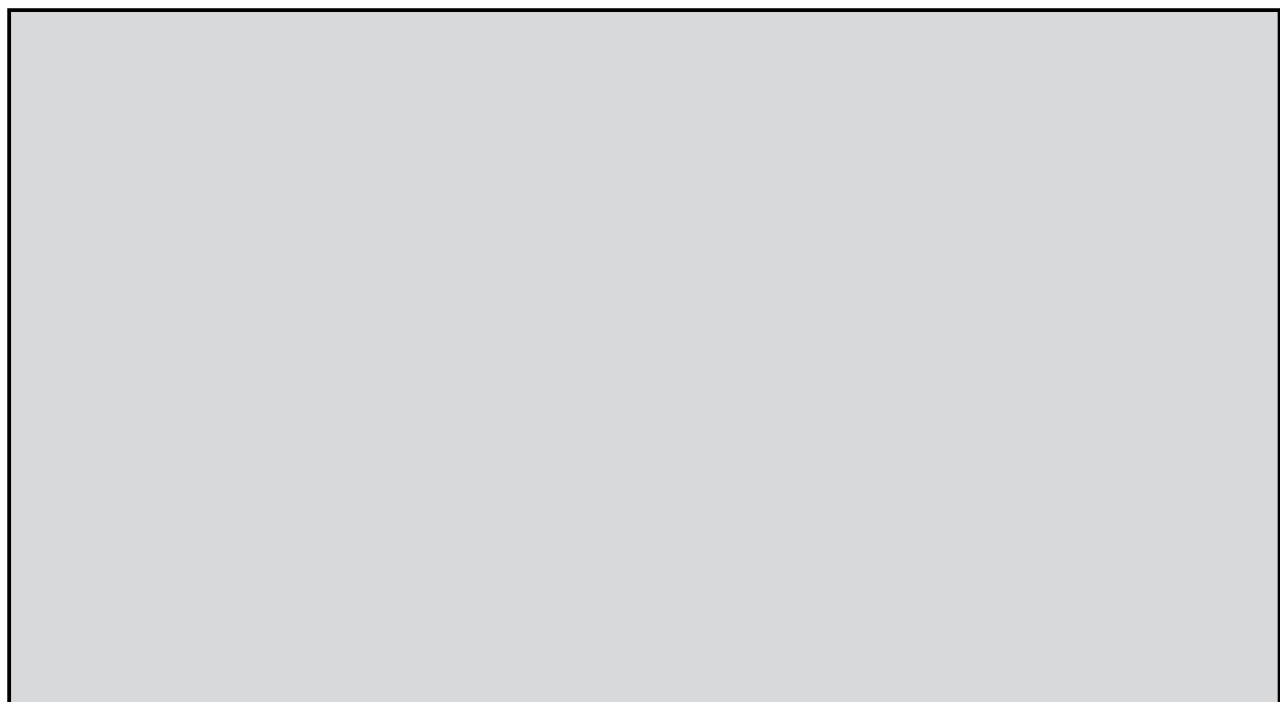
若い教員が高校や大学でその経験はなくとも若さを期待された運動系部活動の顧問となり、その分野で活動し、仕事を任されていく内にひとかどの専門家を自任するようになり、県内外で名を為すようにもなっていく。転勤時に何かの拍子で一時期文化部顧問に就いたとしても、若い内は翌年には運動部活動に戻っていく。いずこも厳しい校内事情で人事を組む以上、なかなか文化系専門部からの願いは聞いてもらえません。

こうした顧問歴はどこでも見られるものだと思います。ただ、教員の絶対数が少なく、それでいて、生徒の多様な選択を維持したいからと頑張るものだから、各校の部活動総数はそれなりに多い島根の現況からは、持続的に演劇部の若手顧問を確保し、数年掛けて育成しようということに、絶望的な見通ししか持てません。

ベテラン顧問の経験と知恵とに支えられ、熟年層の顧問が奮起し、巡り合わせた若手の力を借りて中国大会運営なども持ちこたえてきましたが、次回、次々回とベテランが去り、経験値の少ないものが取り残されて（しかも高齢化が進んで）いくとしたら、いったいどうすればいいのでしょうか。夢と希望と情熱に燃えて演劇部の扉を叩く若人の高鳴る鼓動を、どう受けとめれば存分に演じさせてやれるのでしょうか。着実に進む老老介護的な事務局運営に、島根県の高校演劇を十全に下支えすることは出来るのでしょうか……。

さてそれでも、陰々滅々と終末感が漂えば、やがてその中から光明が芽生えてくるのが世の中というものでしょう。呻吟の声をあげ続ければ、神在月におみえになる八百万の神々のどなたか御一柱にでもお気付きいただいてもするでしょう。轟く叫びを耳にすれば、次元を超えて救世主が現れないとも限りません。禍福は糾える縄のごとし、一陽来復、人間万事塞翁が馬。行き着くところまで行けば、V字回復以外に道はないと、そう信じて、コロナ禍の寄せ来る波に翻弄されつつもなんとか持ちこたえています。

どこかにいてまだ姿を見せぬ「数多くの若手」のみなさんが、演劇部顧問のステージに上がってきてくれることを夢見つつ延命措置に勤しむ日々です。  
(島根県高等学校演劇協議会 事務局長)



## 佐賀県

「夢を繋ぐ時代」

彌富 公成

「さて、どうしようか……。」

2019年。47年に一度の奇跡「さが総文」。ところが私は総合開会式の担当となり、しかもその日が演劇部門の初日とキレイに被ってしまいました。さらに脚本と作曲を担当し指導してきた総合開会式の構成劇と、顧問として指導している佐賀東高校演劇部が「同時刻」の上演。106キロの身体を二つに分けることもできず、約40km離れた二つの会館を行き来しながら、まさに前日まで「その日はどっちに行くべきか」と悩んでいました。「どちらが危機的状況か」もまた微妙なところ。佐賀県は総合開会式も演劇部門も「数名」の運営、全国最小規模で乗り越えようとしていたのです。

佐賀県は2018年度に「肥前さが幕末維新博覧会」という大きなイベントを成功させていました。その博覧会で大きな役割を担ったのが「演劇」でした。佐賀には現存する歴史遺産が他県ほどありません。一時的に県が消滅し、多くの史跡が消えていました。しかし「伝えたい」という人々の想いだけは受け継がれてきました。そんな佐賀県だからこそ、「モノ」ではなく「ひと」を博覧会のメインに据えたのです。点在する会場にはそれぞれ地元の劇団員たちがいて、幕末・維新の礎を築いた佐賀の偉人たち（に扮した役者たち）が大勢の観客と触れあい、時間が来ると即席の舞台上で劇を上演していました。私たちも郷土の歴史にまつわる多くの芝居をつくり、ホールや博物館、古民家、時には野外で公演を重ねました。「伝えたい」と願っていた人々の夢は「演劇」に託され、高校生たちにも「わたしが繋いでいる」という実感が芽生えていました。幻覚かもしれない。おそらく錯覚だろう。だけどここの「佐賀」が、「演劇」が、いま主役になっている…。顧問たちも生徒たちも苦境は承知の上で、維新博の勢いを背中に感じながら「さが総文」に臨んだのでした。

「こっちは大丈夫だから！」と総合開会式部門から言葉をかけられた私は、構成劇メンバーと涙のエールを交わし、鳥栖の「演劇部門」へと向かいました。演劇部門のホールには練習会場もなく、都合のいい部屋もありません。この状況を少人数で乗り切れることは到底難しく、やはり到着しても「どうしよう」が頭の中を巡っていました。ひとり3役の楽屋連絡。数が足りない弁当。交代ナシでも笑顔を絶やさぬ受付生徒。壊れたインカムの代わりに駆け回る運動部員たち。ふとベンチを見ると、上演を控えたウチの部員がベンチに座って泣いていました。私は電池が切れたように立ち尽くしてしまいました。こんなときに、私は何をしているんだろう……。ふと、遠くから声が聞こえてきました。「車はあちらからお願いします！ありがとうございます！」。駐車場係を手伝っている他県の先生の声でした。こんな佐賀を、他県の方々がまるで地元の大大会のように支えていたのです。私はベンチに座りました。二人でホワイエの喧騒を見ていました。「佐賀がこんなことになりましたね」「これ、佐賀の夢だったんだよ」「皆この日が来て、劇が始まるの待ってたんですね」「そう。ずっと待ってた」「じゃあもう、皆の夢だ」。そして二人で「なんだこれ、すごいなあ」って、ぐしゃぐしゃになるまで泣きました。楽屋入り前の約5分。「上演校顧問」として皆さまからいただいた、熱い、とても熱い夏でした。

ご尽力いただいた全国、九州各地の理事の先生方、諸先輩方、ずっと励ましてくださった高知県の先生方と生徒の皆さん、笑顔で過ごしてくれた上演校の皆さんと素晴らしい作品たち。自虐的に謳っていた「全国最少」の佐賀は、大きな家族で乗り越えることができました。47年に1度の奇跡を「佐賀の高校生」として生きたこの夏は、これからどんな夢へと繋がっていくのだろう……。そのゆくえをしっかりと見守っていきたいと思っています。

(佐賀県高等学校文化連盟演劇専門部 事務局長)

## 事務局通信

今年は、年が明けてから、全世界において新型コロナウイルスの感染拡大により、医療、経済活動等に多大な影響を及ぼしてきました。日本の教育現場でも、2月下旬の突然の全国一斉休校による2か月以上の教育の空白等、学校現場においてもさまざまな影響が出ており、未だ先の見えない中で活動を進めている状況です。

遡って昨年12月の日本工学院で令和元年度第2回常任理事会が行われました。会に先立ち、特別協賛団体である学校法人片柳学園 日本工学院との間で、協賛にかかる覚書の締結が行われました。毎年度、全国大会をはじめ高等学校の演劇活動に多大なご支援をいただいております。今後ともご支援をお願いいたします。

続く常任理事会では、佐賀大会の総括報告がありました。会場施設の問題、運営におけるサポート室との調整不足から生じた問題もありましたが、九州ブロックのバックアップを得ながら、無事に大会を終了することができました。大会運営側（実行委員会）と上演校との連絡、情報の伝達は基本的にデジタル化し、メールでのやり取りを中心に行いました。そのことによって、情報交換の効率化、記録の明確化が図られることにつながりました。大会運営データの蓄積は、今後の開催地との情報共有を確実にするためにも、重要であると考えます。生徒講評

委員会の運営については、第1回常任理事会での協議を経て、教員側の指導体制の再構築、協議進行のあり方の改善、夜間の活動時間の再検討を行い、高知大会から実施することを確認しました。

インターネット関連の著作権（映像、音楽等）についても、ダウンロードした場合の許諾の確認等、必要なガイドラインについて全国事務局としても発信していきたいと考えます。また、近年導入の進む部活動指導員についても、各都道府県がしている講習の受講等の条件をクリアすることにより、正式な手続きを経て引率が可能になるという事例もブロックから報告されました。

異動に伴う前籍校への指導、コーチの扱いについては既に規約細則などで規定されていますので、あわせて確認してください。

その後の全国高等学校演劇協議会の事業については、3月の春季（新潟）大会の中止、8月の全国高等学校総合文化祭の大会形態の大幅な変更に伴う代替大会の検討等、大きく変更を余儀なくされております。一人ひとりのいのちを守ることと、新型コロナウイルス感染拡大防止をふまえて、高校生の演劇活動をどのように保証していくのかを考えております。皆さまもどうぞご自愛ください。

（事務局・三上 実）

## 令和2年度 全国高等学校演劇協議会加盟校数一覧

地区	都道府県	加盟校数	地区	都道府県	加盟校数	地区	都道府県	加盟校数
北海道	北海道	94	中部日本 (247)	愛知	131	四国 (62)	香川	15
東北 (181)	青森	26		岐阜	43		高知	17
	秋田	20		三重	25		徳島	14
	山形	21		福井	15		愛媛	16
	岩手	27		石川	17	福岡	65	
	宮城	43		富山	16	佐賀	8	
	福島	44	大阪	101	長崎	14		
関東 (847)	茨城	56	近畿 (263)	兵庫	80	九州 (182)	熊本	28
	栃木	40		京都	28		大分	11
	群馬	41		滋賀	18		宮崎	18
	千葉	115		奈良	24		鹿児島	23
	埼玉	113		和歌山	12		沖縄	15
	東京	208		鳥取	17			
	神奈川	110	島根	13				
	静岡	45	岡山	43				
	山梨	22	広島	45				
	新潟	40	山口	24				
長野	57					合計	2,018	

### ホームページをリニューアルしました。

2020年3月にホームページのリニューアルを行いました。  
 今回のリニューアルでは、皆様にとってより見やすく、  
 情報が探し出しやすいように構成やデザインの改善をさせて  
 いただきました。

皆さんにとって、より使いやすいホームページ運営を目指  
 してまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。

### 全国高等学校演劇協議会



ホームページアドレス <http://koenkyo.org/>